



## 外科学第一講座のご紹介

### 外科学第一講座 木暮 道彦

当科は消化器外科（肝胆膵および消化管）、呼吸器外科、小児外科から成り立っています。消化管外科は食道、胃、大腸の癌に対し従来の手術に加え低侵襲な鏡視下手術や血管吻合を用いた消化管再建術も取り入れ、難治性の炎症性腸疾患に対する手術も行っております。肝胆膵外科では癌の手術はもちろん、移植医療にも力を入れており生体肝移植、膵・膵島移植を行い高い評価を受けております。

呼吸器外科では肺癌の手術症例が特に多いですが、自然気胸や良性腫瘍も含め胸腔鏡手術を行っております。また肝、膵、

肺癌の切除不能な患者さんに対し樹状細胞療法やがんペプチド療法といった免疫系を活性化させる治療法も行っております。

小児外科では新生児も含めた消化器、呼吸器、泌尿器疾患さらに悪性疾患に対する手術を行い、肝チームと一緒に小児の肝移植例の治療にあたっております。

当科はこのように多岐にわたる疾患を扱っておりますが、自由な雰囲気でごチームの横の連携を密にして診療に取り組んでおります。また研究の面では移植、腫瘍免疫、細胞シートの作成など癌から再生医療にいたるまで幅広い研究が連綿と受け継がれております。自由で何でもやってやろうという気概にあふれているのが第一外科です。

## アニバーサリー2008成果発表会及びイメージデザインマークについて



去る11月2日、県文化センター小ホールを会場に、本学の光が丘キャンパス移転20周年、看護学部開設10周年及び完全法人化を記念した事業「アニバーサリー2008」の記念コンサートと成果発表会を開催しました。

記念コンサートは、本学の学生が主体となって進行し、6団体100名を超える学生が、日頃の練習の成果をご披露しました。同時に、ホワイエにおいて写真部による作品の展示も行いました。

成果発表会では、医学部学生、看護学部学生、研修医の各立場から、求める大学像をプレゼンテーションし、それを受けて、より魅力ある大学として進展を図るため、大学のイメージデザインマーク及び学生歌を発表しました。更に、本学の今後のあるべき姿を「ビジョン2008」として宣言し、成果発表会を閉じました。当日は、連休中でありましたが、多くのご来場をいただき、大変ありがとうございました。

イメージデザインマークは、福島県の「F」をモチーフに桜を組み合わせ、花びらの小から大への広がり度で研究・創造の広がり、世界への広がりを表し、また、ハートで生命を尊ぶ医療人の心を表現しています。今後、福島県立医科大学のシンボルマークとして活用する予定です。

## 附属病院消防訓練について

11月4日(火) 病院で消防訓練を実施いたしました。

地震発生により7階の病棟から出火したとの想定で訓練を行い消防署への通報、屋内に設置されている消火装置を実際に操作しての放水、非常階段を利用した避難等を行いました。

これらは普段は体験できないことで、訓練を繰り返すことで行動ができるようになるものです。

病院関係者は、このような訓練をすることにより、実際に災害が発生した場合に適切な対応ができるようになり、病院利用者の安全に役立つと考えております。

また、福島南消防署からは、消防車、梯子車による救出訓練や消火器の操作方法・火災に対する心構えのお話等をしていただきました。

患者さんや付添いの方におかれましても、災害時に速やかに

避難できるよう、避難口などを確認していただきたいと思います。



神経内科学講座

熊谷 智広 宇川 義一

脳卒中は、脳へ血液を送る血管がつまる脳梗塞、脳の血管が破れて出血する脳出血、さらに、脳の血管の一部がふくらんだ「動脈瘤」が破裂して脳の表面を中心に出血が広がるくも膜下出血に分けられます。脳は全体としては様々な仕事をしていますが、一箇所のする仕事は一つですから、どこで梗塞や出血が起きたかで症状は様々です。しかし、共通している特徴として「症状が突然起こる」ということが挙げられます。多くの方が、何時何分に症状が始まった、何をしていた時に起こった、と言えるほどです。次に、その他の代表的な症状をお示します。

- ①片方の手足・顔半分の麻痺・しびれ（手足のみ、顔のみの場合もあります）
- ②「ろれつ」が回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- ③力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- ④片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- ⑤経験したことのない激しい頭痛がする  
(日本脳卒中協会広報より)

これらの症状のほかに意識状態が悪化することもあります。以上のような症状が出現した時は、救急車などを利用することも含め、一刻も早く、専門的な病院を受診するようにしてください。



こんにちは 治験センターです

治験センターは、平成18年4月にできたばかりの新しい組織です。「治験」とは発売前（日常の診療で使われる）のお薬（新薬）を実際の患者さんに使用して効果や安全性を確かめることをいいますが、その言葉の響きや活字の見た目から、試験的なイメージを持たれる方が多いようです。しかし、新薬を創るためには欠かすことのできない過程です。

新薬が発売されるまでに必要な過程は大変複雑で、専門家である医療スタッフにも大変な労力が求められます。治験センターはそのような新薬開発に伴い負担が増える患者さんや医療スタッフを支援する組織です。治験センターには患者さんと医療スタッフ、新薬を開発する企業を橋渡しする看護師や薬剤師（治験コーディネーター）がいます。新薬から切り離せない副作用についても細心の注意が払われています。また、院内には治験が正しく行われているかどうかを監視する「治験審査委員会」が組織され、11名の委員が常の一つ一つの治験の各過程を監視しています。

今、治療法がなく困っている患者さんや発売後にもたらす多くの患者さんたちへの利益、そして、新たな治療法を生み出そうと努力している医療関係者の皆さんを、私たち治験センターの職員は全力でバックアップしています。



この他、薬剤部長 白坂正良、耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授 小川 洋がセンター次長を務めています。

「きいてください 院長さん」 投書箱から



「外来の廊下などが殺風景です。待っているのにたいくつしないようにお願いします」など病院の環境に関する投書が寄せられています。

当病院では写真愛好団体「喜写クラブ」さんの協力を得て、1階の通路に季節の風景写真を展示しています。「喜写クラブ」さんは平成6年に設立された写真を趣味にしている方々の団体で、毎年福島テルサで写真展を開催しています。

また、その他の外来の通路にも多くの方々の協力を得て、風景写真や季節の花々の写真などを展示し、待ち時間に少しでもやすらげる空間をつくることのできるよう努めているところです。

11月から12月までの間、押し花教室を開催しているフラワー工房「花いちもんめ」さんの協力を得て、教室で作成された押し花作品を2階の通路に展示しております。今回の展示は12月いっぱいですが、12月に開設しました性差医療センターには引き続き展示していただけるようお願いしています。

当病院としては患者さんが少しでも心地よく過ごせるよう努力したいと考えておりますので、今後とも忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。



お知らせ

12月1日から形成外科外来が病院本館2階・性差医療センター北側に移動しました。詳しい場所につきましては本紙1ページ目の配置図をご参照ください。

なお、21年1月には外来化学療法室が病院本館3階に移動し、「外来化学療法センター」として稼働開始予定です。

栄養士からアドバイス — 冬の食卓はあたたかい鍋料理で —

～ ニワトリ症候群にならないために ～

この原稿を書いている11月は霜月、朝夕は霜が降りるようになりめっきり冬らしくなってきました。

その冬の食卓を飾る「鍋料理」。大きな鍋に色とりどりの具材を入れて、暖かな部屋で食べると、身も心もあたたまっていくものです。

しかし、最近では食生活が多様化し、皆で一緒に同じ食事をする機会も減ってきているようです。ひとりぽっちで食べる「孤」食。朝食を食べない「欠」食。家族ひとりひとりが違うものを食べる「個」食。自分の好きな物ばかり食べる「固」食。そのような食生活のことを、それぞれの頭文字をとって「孤欠個固（コケココ）」のニワトリ症候群の食べ方とも云われています。

「食べる」ことには、いつ、どこで、何を、誰と、どのようにして食べるのかが重要な要素となります。その心理的なことが満たされないと、たとえ美味しい食事であっても餌のように味気ない食事になってしまいます。

12月は師走、何かと忙しい時期ではありますが、せめて食事くらいはゆっくりとくつろいで楽しい気分で味わいたいものですね。今晩は鍋料理で、身も心もあたたまってみてはいかがですか？



「クリーニングの同仁社」です



こちらはリネン室です。ここでは(株)同仁社の9名の駐在員が仕事をしています。場所は病院地下1階にあります。主な仕事は、寝具・リネン品の貸し出し業務や白衣・看護衣のクリーニング受け払い業務です。

また、病衣や付き添いの寝具を患者様や付き添いの方に直接貸し出しも行っています。各病室にお伺いしていますので、もしサイズの変更等がありましたらお申し付け下さい。

また、「病衣の中に貴重品が入っていないか」お問い合わせをいただく事があります。病衣の着替えの際には、今一度ポケットに忘れ物がないか、確認をお願いします。工場では洗濯の際にポケットの中に手を入れて確認する事は、危険が行いません。病衣を逆さにしての確認のみとなっております。何卒ご理解頂きますようお願いいたします。

これからもお客様の期待とニーズを把握し、清潔で快適な製品とサービスを提供いたします。何かお気づきの点がありましたら、廊下でリネンカートを押しているリネン担当者にお声をお掛けください。よろしくお願いたします。

病院ボランティア「けやきの会」 りれー通信 4

「楽しみのボランティア」 佐久間 トシエ

春は桜、夏は向日葵、そして、冬の雪の前に秋の紅葉と、四季折々の美しい自然を味わいながら、ここ丘の上の医大病院けやきの会ボランティアとして活動させて頂きまして、3年目を迎えました。

初めは、何もわからず本当に大変でしたが、良き先輩のご指導を頂き、少しずつ覚えて戸惑いながらも頑張っております。いろいろな方と出会い、学ぶ事が沢山ありました。ある日、病院内の案内介助でうれしい事があり、私の心が温かくなったと

気がついた時、ボランティアに参加して良かったと思えました。

いつも、心やさしく患者さんのお手伝いが出来れば、感謝のお言葉が返ってきます。車イス介助にしても、一人ひとりの患者さんがちがうように、受け答えの大切さを大事にしています。

すべての経験を宝物として、詰めこんだ事を忘れずに活動出来るように、心がけています。ボランティアの皆様の輪の中で、少しでも長く、多く、活動を続けられますように、私も努力します。



こころときめいて、くらしかがやいて。

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは 福島医大病院支店

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間：平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時  
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。

高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

